

十神山



会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

☎692-0064
島根県安来市古川町534
TEL 0854-28-9988
FAX 0854-28-9393
http://www.y-hozon.com/
E-mail:admin@y-hozon.com

上位昇格者

11月27日に開催された安来節保存会代議員会にて、平成25年度の上位昇格者と表彰者が発表されました。
今回、准名人に3名、大師範に13名の方が昇格されました。おめでとうございます。来年の1月10日の唄い初め会において、免状・表彰状の授与と昇格披露を行います。

— 准名人 (3名) —



西村 サツ子
唄の部 (神戸)



田村 実
絃の部 (関西)



石崎 和子
唄の部 (尾高)

— 大師範 (13名) —

片山 久美 (本部道場)
原谷 洋子 (本部道場)
青瀬 広子 (本部道場)
丸瀬 千登世 (本部道場)
角部 雅宏 (本部道場)
勝部 明美 (湖門)
藤原 寿夫 (湖道)
小田村 顯志 (宍道)
長谷川 恭二 (松江)
高田 正男 (津ノ江)
寺坂 健一郎 (鳥取)
楠部 勝海 (江田島能美)

(代議員会資料名簿順)

会員表彰者

(43名)

一字川 保成 (本部道場)
田中 登志江 (本部道場)
高橋 節子 (本部道場)
古山 久美江 (出雲)
高橋 隆子 (石見)
福田 絹枝 (大田)
勝部 伸哉 (加茂)
品川 和美 (神門)
太田 由加子 (湖陵)
田中 富士子 (湖陵)
古澤 スミ子 (宍道)
祝部 寿美 (大社)
藤井 満子 (津和野)
久保田 利幸 (那賀)
下手 キヌ子 (浜田)
野上 朝子 (浜田中央)
遠藤 勝美 (斐川)
多々納 正直 (平田)
佐々井 貴子 (益田)
大野 千代子 (松江)
板垣 克宜 (松江)
田中 崎江 (尾高)
柴山 美由紀 (境港東)
楠 朝子 (津ノ井)
金居 みどり (東伯)
朝野 公代 (鳥取)
高垣 賢逸 (鳥取)
神原 一弘 (米子)
奥田 美恵子 (米子中)
鍛冶谷 典子 (江田島能美)
部家 紀江 (江田島能美)
寺尾 幸子 (広島)
田丸 徳治 (広島)
亀谷 睦子 (広島玉実)
安葉 春枝 (広島中)
曾川 貞子 (広島南)
植田 邦子 (岡山)
徳森 勝子 (岡山)
高山 恵子 (津山)
佐伯 ヨシ子 (松山)
西口 きぬ子 (関西)
藏之前 皖弘 (関西)
高井 芳雄 (神戸)

(代議員会資料名簿順)

八岐の大蛇の正体は何か

— 古事記編纂一三〇〇年にちなんで —

並河 健 蔵

この夏から晩秋にかけて古事記編纂一三〇〇年を記念して、出雲市を中心とした「神話博しまね」が盛大に開催された。その出雲神話の主役となる八岐の大蛇退治の物語の正体は、いったい何であるのか。一般にオロチの正体は暴れ川の斐伊川とされている。須佐之男命が高天原を追われて降り立った斐伊川は、奥出雲の船通山に源をもち宍道湖に注ぐまで七五〇もある。多くの支流を集めて流れる広い流域を須佐之男命が治水に努め、豊かな大地を造成して稲の豊作をもたらした、多くの住民を救った、いわば治山治水の英雄とされている。

操業するたたら師は朝鮮半島からの渡来人であり、彼らを掌握する強力な豪族がいたと考えられる。彼らはその地域の住民たちを強制的に砂鉄の採取や木炭の生産に従事させて、その生活を脅かしたのである。娘が毎年奪われるのは、このただならぬ事態を象徴しているのではないか。

一方、中国山地とくに斐伊川上流の山間地を中心とする豪族支配による製鉄集団の乱暴狼藉を須佐之男命が平定したという説がある。

オロチの尾から現れた天叢雲剣は、製鉄集団の存在を示すものであり、それを天照大御神に献上したことは、須佐之男命がこの地方を平定して、たたら製鉄技術をわがものにしたことを、天下に誇示したことに外ならないと思う。イメージは膨らむばかりである。

あらためて古事記から八岐の大蛇退治の神話を要約してみよう。スサノオは斐伊川の上流の鳥髪という地に降り立ったところ、その川で箸が流れてくるのを見て、上流に人が住んでいるとあって湖と、アシナヅチ、テナヅチの老夫婦と娘のクシナダヒメが川のほとりで泣いていた。スサノオが不審に思って尋ねると、老夫婦は「八岐のオロチが毎年襲って来ては七人の娘を次々と食べ、今度は独り残ったこの娘が餌食になるのかと思

も多くの谷間を利用して「野だたら」が操業されていたのであろう。谷間で燃える「たたら」は夜空を赤く焦し、黒々として連なる山脈を、夜毎にのたうつオロチと見たのではないか。しかもオロチの腹が赤くただれているのは、たたら炉底より出る鉞滓が火を弾きながらのろろとして延びてくる状態をさしているであろう。

い、三人で泣いているのです」

「野だたら」といって自然通風を利用して吹く原始的なものである。この製鉄はすでに古墳時代に始まっており、中国山地で

の刀匠に配られている。

被災地の皆様に 元気と笑顔を届けて



家元四代目
渡部 お糸

「神話のふるさと出雲から本場の唄と踊りと銭太鼓を届けます」を掲げて、九月二十一日、二十二日の両日、福島県相馬市と宮城県名取市、亘理町の三ヶ所の仮設住宅集会所などで慰問公演を行いました。

一行二十七名で昨年に続き、二回目の東北訪問となりました。仙台空港から観光バスに乗り、昼食場所に向いました。このバスは私達がテレビニュース等で何度も見た津波によって建物の上にバスが乗っていた南三陸交通のバスでした。バスガイドさんが「震災の時、私は会社の二階にいて、ものすごい揺れの後、何もわからない内に津波が二階まで押し寄せ、必死の思いで三階まで上がって助かりました」と淡々と静かな口調で語る東北美人のバスガ



イドさんの案内に胸を打たれながら昼食場所に着くと驚いた事にそこに建物は無く、土台だけがわずかに残っており、その近くの仮設のお店に行きました。「こういう所ですみません」とおっしゃったお店の方の胸の内、舟形の器の上に海の幸がたつぷり乗った「復興チャレンジ丼」を口に運ぶと「元のように早く復興したい」という気持ちの伝わり、新たな力が湧いて来ました。公演ではどの会場も超満員で嵐のような歓声と拍手をいただきました。昨年はあまり見る事が出来なかつた笑顔が今年はたくさん見え、被災地の皆様の表情も明るくなってきたと感じました。東北の皆様に元気と笑顔を届けるつもりがかえって私達が元気と勇気をいただきました。一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

支部情報

韓国釜山・南海島 親善交流の旅を終えて



棚橋 保
(東京支部長)

はじめに支部設立十五周年を記念して昨年行く予定が、東日本大震災で断念せざるを得なかつた。一年半経って、今度は竹島問題が起こり、一抹の不安があつたが、十月二十四日、一路成田国際空港から釜山空港へ飛び立った。結果、大歓迎を受け、心配は払拭され、かつてない心の通う交流が出来た事を喜んでいる。

成果その一、十月二十五日、南海島では島あげでの文化祭が立派な文化会館で行われ、その中の安来節の唄、踊りの披露となり、小中学生から大人までの多くの方々に見ていただいた。特に三味線鼓の音に大変興味を持たれ、それぞれの音を聞かせて欲しいとの注文があり、それぞれ単独に打つ、弾くをした所、会場から大きな拍手をいただいた。またパンスリの弾き語りにも太鼓で艶やかな踊りがあり、親近感を持つものだった。十月二十六日釜山に戻り、釜山農民舞踊楽の皆さんと交流を行った。総勢五十数名にのぼり、稲作の田起こしから田植え、稲刈りまでの昔の作業そのままを舞踊として保存しているとの事で、舞踊団の方々



は年齢、職業を超えて稲作文化を釜山の地で大切に守っている姿は感動的であった。そして作業が終わった所で私達の踊りがその延長上にあり、楽しそうに見ていた。誠心通う交流を実感した。成果その二、今回の親善交流に同行していただいた方は東京支部会員は東京・千葉・神奈川・埼玉・栃木の都四県、一般参加の方は大阪・神戸・広島・鳥取・奈良の各地にわたり、さらに神戸支部から藤原朔子さんにも参加していただき、大役を果たしてもらいました。成果その三、お土産交換に安来市キャラクター「あらエツサクくん」を八十個、どじょう掬いまんじゅう二百個を参加費から捻出、贈呈し、相手の方に大変喜ばれた。成果その四、旅行社(センターリスト)のご尽力で自称応援団という形で参加していただいた方々十一名と会員八名の計十九名の大勢となり、その中で兵庫の津播さんはアコーディオンを持参され、日本の唄(故郷・紅葉)、朝鮮の民謡(トラジ・アヒラン・ウリナラコツ・サントキ・リムジンガン)を指導していただき、釜山の方々の大合唱となり、側面から親善交流を盛り上げていただきました。

終わりに今回の親善交流にあたり、社団法人 水榮古蹟民俗芸術保存協会の理事長 房 光星氏、釜山市無形文化財保持者の柳 正五氏、会長の金 成律氏から大変暖かい歓迎のご挨拶をいただきました。特に理事長の房 光星氏から「こんな遠い所へ良く来てくれた。毎年でも来て欲しい。」との言葉に今回の親善交流の成果が集約されているように思っている。

平成25年新春民謡ショー

主催/公益財団法人 日本民謡協会
開催日時/平成25年 1月26日(土)
10:30~18:30
場所/メルパルクホール
(東京郵便貯金ホール)
入場券/ 1枚につき 3,150円

公益財団法人 日本民謡協会

安来節保存会関東地区
安来節関東連合会関東支部
安来節保存会関東支部
安来節保存会関東支部幸手 事務局
安来節スカイ支部連合会

申込み(問合せ)先
〒340-0156 幸手市南1丁目5-8
TEL・FAX 0480-42-3036
ホームページ <http://www.yasugibusi-k.or.jp/>



主催 公益財団法人 日本民謡協会 平成24年度 民謡民舞全国大会 10月18~21日 於 両国・国技館
公益財団法人認定記念 踊り手 安来節保存会関東支部社中



安部 寿樹
(松山支部長)

私と安来節との出会いは、今から三十五、六年前です。何か一芸を身に付けようと思っていた時に島根出身の方と出会い、家元三代目渡部お糸先生と男踊りの森田先生を紹介して頂き、安来節を始め、松山から島根へと通い大変でした。昭和五十七年に三代目渡部お糸先生のお弟子さんの西嶋先生と会わ

せて頂き、五月に松山支部を設立させて頂きました。渡部紫支部長が亡くなられた後、三代目の支部長となり、右も左もわからないまま前だけを見て進みました。十周年、二十周年と支部の事だけを見て進み、支部内にも准名人、大師範、師範と上位資格者もでき、支部としても安定してきて会員共々喜んでおります。私も無資格で支部長という役を頂き、安来節と愛媛の民謡と忙しくして、はや三十二年、今は踊りの大師範との資格を頂き、毎日、会員の事、自分の事、また勉強に指導にと忙しい日々を過ごしています。会員減少の中、今年の九月九日に支部設立三十周年大会を無事に終わる事が出来ました。三十周年には保存会の会長様を始め、松山支部を御指導頂いた先生方、また広島地区の支部長の方々と多くの方に支えられ、大変お世話になり、誠にありがとうございます。今後も会員共々一生懸命頑張りますので御指導の程、お願い申し上げます。

私の生まれは徳島県です。阿波踊りしか見た事が無く、島根へ嫁いってから町内の夏祭りや渡部孝子さんの安来節を初めて聞き、すごく感動しました。私もあんなに唄えたらいいなと思いました。やがて近くに仁多支部民謡教室がある事を知り、絃も唄も教えておられる恩田先生と

出会い、唄を習う事になりました。なかなか准師範から師範になれず、もう唄なんかやめてしまおうかと思つた事もありましたが、何とか続けて来る事ができ、平成二十一年に唄の師範になる事が出来ました。これも御指導頂いた師匠をはじめ、諸先輩方、応援してくれた家族に感謝しております。また、絃も教えて頂いており、師範目指して頑張ります。



井上 俊子
(仁多支部)

安来節保存会の今後の益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

私と安来節



神原 一弘
(米子支部)

昭和四十八年の夏でした。准名人で資格審査員の榎野暉夫先生に出会いました。「今晚、岸本の民家の一室を借りて安来節の練習をするから来てみないか」と言われ、行って見ましたら、何人か来ておられました。順番に唄われ、唐突に自分にも「唄ってみないか」と言われ、正座をして、ももを手で叩いてテンポをとりながら唄うのですが、テンポが合わず大変苦労

しました。それでも何とか唄えれば先生は両手を高く上げ、大きな丸をして頂きました。その後はその丸をして頂くのが嬉しくて練習に励みました。翌年の昭和四十九年の審査で嬉しくも二級に昇格しました。絃は准師範に昇格するまで故 内田岩隆先生にお世話になりました。その後、精進を重ね、幸いにも次々と昇格し、昭和五十四年に唄・准師範に昇格致しました。次は師範に挑戦で唄ってはみましたが、とても難しく自分には無理だと思い、安来節を中断してしまいました。その二十二年後の平成十三年に六十五歳で会社を退職した事を契機にもう一度安来節をと、

再起を思い立ち、大師範の田子博文、よしこ先生に懇願し、師範昇格への練習を始めました。お陰様で審査挑戦二回目の平成十五年に師範に昇格致しました。今でも発表で自分の番号を呼ばれた時の嬉しさは最高でした。現在は米子支部の会計を任じられて、はや七年目になります。今まで御指導頂きました先生方はもとより支部長様を始め、会員の皆様のご尽力に心から感謝致しております。

次女が「私、安来節を始めたの、母さんも老後の楽しみに習つたら」が安来節との出会いである。妻と子が予選を勝ち抜き全大会に出場するたび、広島から安来市まで車で送り迎え、全大会での会場の熱気、思わず唄声に引き込まれ最後まで聞き入りました。当時私も定年を来入りに控えており、送り迎えをする位なら、定年後、妻と共に楽

しく余生を過ごす為にもと考え、現在の師匠(広島中支部)のもとで親子三人習い始めました。月日の経つのは速いもので、習い始めてもう一昔になろうとしています。習い始めの頃は妻と一緒に暑い日も寒い日も散歩を兼ねて太田川の橋の下で大声でレッスン、如何せん安来節は妻子に勝てません。妻も私もこの年になって三味線が弾けるなんて思いもしなかったと語り合います。これも安来節に出会ったお陰と喜んで毎日を精進していきます。安来節の楽しさを少しでも多くの人と分かち合えればと考えている今日この頃です。

大小鼓製造卸販売



杉本 鼓 店

住所：島根県松江市馬潟町360-13
電話・FAX：0852-37-2033
E-mail：ks36013@web-sanin.co.jp

※通信販売も致しますので、お気軽にお電話ください。修理、下取りもご相談ください。

(有)仁木三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1
TEL 045(713)4319 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>

会員の声コーナー

昔聴いた安来節



鶴谷 恒
(大江戸支部)

私が子供の頃、還暦・四十歳の祝い・結婚祝いなどは、親族一同が集まりその家で行われていた。お祝いの席では郷土民謡(隠岐しげさ節、どっさり節、隠岐相撲取り節、隠岐祝い音頭など)の他、貝殻節・関の五本松などに加え安来節も良く歌われていました。安来節は良く知っている

つもりでいたけど、安来節保存会大江戸支部に入会してから、改めて安来節の奥深さに驚いています。保存会に入会したのは、老後の趣味として銭太鼓を習おうと思ったのがきっかけでした。森脇支部長のご指導のもと、少しは打てるようになったかなと思います。会員の皆様の唄・絃・鼓を聴いたり踊りを見ていううちに歌い方、絃の弾き方等多様多様で今更ながらその奥深さに感じています。半世紀以上も前の田舎の酒席で聞いていた安来節。当時の人たちは誰に習ったと言うことはないと思うけど、いろいろな歌詞の唄が歌われ

ていました。私もこれから六十ならぬ七十の手習いで当時の大人達のように人前で歌えるように頑張りたいと思います。当時の唄をひとつ。
〱朝顔は馬鹿な花だよ
根もない竹に
命までもとすがりつく
また、こんなのもありました。
〱大工さん 頼みがござんす
この家の戸が
開け立てするの音に音がする
そろりと開いて
そろりと閉まるよに
いかぬもんかえ 大工さん

私の思っている事



渡部 二郎
(松江支部)

会員の皆様、安来節のしおりを読んでも、何を言うか「何を言うか失礼な」と言われる方もありません。各支部教室で指導練習される時、安来節のしおりに載っている指導要綱をどの程度活用されているでしょうか。それぞれ指導者にも流派があり、その方の技の指導に重点的になる事でしょう。それも大切な事

でしようが、保存会である以上、会の指導要綱の標準基本的な技を身につけるべきではないでしょうか。ある場所での出来事ですが、唄と三味線で一節の終わりが合わない、なぜか、両者いわく「私は七拍で習っています」「私は六拍で習っています」との事、会の指導要綱を基に指導練習されているのか、先般十一月十一日の

指導部員の方から唄が長かったと指摘がありました。師範の人でも標準の唄が唄えないのか(いつもの癖からうっかりしていたのか)いずれにせよ指導者、またこれから指導者になる人、高度な技を身につける事はもとより初心者に教えるには保存会の標準基本をしっかり身につけておく事が必要ではありませんでしょうか。先般十一月十一日の大師範以上研修会で指導部の方から今年度の師範研修会の結果報告と今後の指導方法についての説明がありました。特に保存会のしおりをもっと活用するようにとの話もありました。会員の皆さんしおりをよく読み活用しましょう。

事務局からのお知らせ

《部門別講習会日程表》

平成25年1月～3月にかけて、准師範・師範以上の方を対象に部門別の講習会を開催致します。

参加につきましては事前に支部にお申込みください。

なお、お申込をされずに来られた場合はお断りする場合がございますので、何卒ご了承ください。

なお、日程等につきましては右記の通りです。

記

・参加資格：准師範・師範以上

・参加料：¥2,000円

(1日1種目：鼓・踊は別々の受講となります)

・時間：午前10:00～午後3:00

・会場：安来節演芸館 2F

平成25年 1月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10 唄い初め会	11	12
13	14	15	16	17	18	19 准師範唄
20 准師範絃	21	22	23	24 准師範銭	25	26
27	28	29 准師範唄	30	31		

2月/3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3 准師範鼓・踊	4	5	6	7	8	9
10 師範唄	11 師範鼓・踊	12	13	14	15	16
17 師範銭	18 師範唄	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	3/1	2 師範絃

あなた専用の安来節伴奏テープ作ります!

伴奏があればなあ…と、くやしい思いをした事ありませんか? ご自身で唄ったもの(手拍子で唄っても可)を録音して送って下さい。ご希望があれば書添えて下さい。

製作料：8,000円～

(申込先)

安来歌人 一字塾 代表 丸瀬一字

〒692-0055 島根県安来市飯生町883

TEL: 0854-22-5323 携帯: 080-5235-0250



※安来節選定歌詞歌唱参考歌集発売中

素唄の一部、初段、二段、三段、准師範、師範全歌詞収録 CD 5巻セット 価格：10,000円

安来節のしおり(平成24年度版)に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

【訂正】

関東支部 P174

誤 唄 三級 堀口清子 → 正 絃 三級 堀口清子

誤 唄 三級 沖本達也 → 正 絃 三級 沖本達也

誤 唄 三級 小林順一 → 正 絃 三級 小林順一